

6. 農林総合研究センターとして統合

千葉県農林総合研究センター森林研究所

平成20年4月1日、農業総合研究センターと森林研究センターが統合して、農林総合研究センターが発足しました。これにより職員18名、研究職員10名の小さな組織から職員300名、研究職員120名の大きな組織の一員として仲間入りしました。

千葉県は首都圏に農作物を供給する地域として重要な位置を占めており、全国第2位の生産額を示しています。旧農業総合研究センターは、千葉県特有の火山灰に由来する栄養分の少ない土壌の改良や平地の少ない地域での施設園芸技術の開発、そして消費者に好まれる品種の率先的開発などに取り組んできました。豊かな人材と豊富な経験に培われてきた伝統と組織は、新しい人材の育成にも良い効果を発揮しています。

一方千葉県の林業は、農用林や薪炭林として他産業を支えて来ており、山武林業では九十九里海岸の漁業に使用する船材、そして首都圏の木材を供給する地域として発展してきました。しかし、森林生産物の経済的価値が低下する流れの中、現在では、潮風害の防止、水資源の涵養、生活環境の保全、うるおい空間の創出など県民生活を快適に過ごすのに必要な自然空間として、森林が公益的機能を発揮できる技術の開発が求められるようになっております。

今回の統合により農林業分野において横断的に施策を実施しやすくなり、農業の持つ栽培技術や商品化技術、そして林業が持つ樹木利用技術や微生物利用技術など研究員同士の意見・情報が融合し、新しい技術の開発が期待されております。また、農地や林地などの土地利用技術にさらに環境保全的要素が加えられていくのではないかと期待しております。